

市民がつくる、まちを楽しくする大学

ヒガシヤマト



未来大学

Future University HIGASHIYAMATO

蔵敷チーム NEWS LETTER VOL. 02

01. 第二回目講座内容

●他市の取り組みを知ろう。

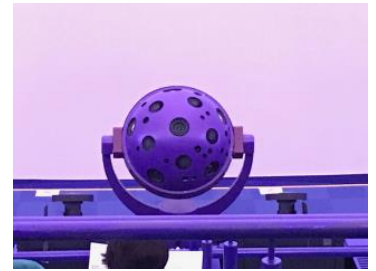
日時:10月13日(土)12:40~16:00

場所:多摩六都科学館

講師:多摩六都科学館サイエンスエッグ

石山彩さん(パブリックリレーションズグループ) 柴崎勝利さん(天文チーム)

科学館入場料・観覧料 1,000円 参加者1名 参加者4名



○多摩六都科学館サイエンスエッグ

世界一に認定されたプラネタリウムと、5つの展示室を持つ、体験型のミュージアム。東京と西東京市にあり、小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市の5市で運営している。2019年3月に25周年を迎える。プラネタリウムドーム「サイエンスエッグ」は直径27.5mで世界第4位の大きさ。投影機「CHIRON II」は最も多くの星を投影できるとして世界一に認定されている。生解説プラネタリウムは天文スタッフが個性豊かに解説しているのが特徴のひとつ。

★生解説プラネタリウム鑑賞(45分)

・東大和市とは異なり、傾斜のある座席配置。南の空が正面。

★多摩六都科学館について&質疑応答

〈プラネタリウムについて〉

・CHIRON IIの導入についてはより本物に近い星空を投影したかった。

・生解説は、本人が好きなように構成・選曲をして、自由につくっている。

・ドームコンサートの企画もしている。

〈運営・企画について〉

・指定管理者による運営体制

・ボランティアが展示できるスペースがある。ボランティアが企画し、職員がチェックし実行。

ジュニアボランティアもあり、小学生たちが曜日班やテーマ班の手伝いに入る。

・施設のキャッチコピーがある。『DO!サイエンス』

・5市の地域情報が集まるスペースがある。

・5つの展示室でイベントは予約制と当日でも参加できるものと、誰でも楽しめるようにバランスを考えている。

・施設が大きいので安全に人を動かす配慮が大事。小回りが利きにくい。



02. まとめ

プラネタリウムのしくみや運営・企画体制など東大和との違いについてもたくさんお話を聞けました。

どんなプラネタリウムになったらもっと良いなとみなさんは考えるでしょうか？

・参加型で市民を巻き込む体制ができています。

・わかりやすいキャッチコピーがある。

〈第三回へつづく〉